

業務種別	業務内容	評価項目	1stステップ	2ndステップ	3rdステップ	解説
G. アドボ ケート	1) クライエ ントの意向 が尊重さ れるため の支援	a. クライエ ントの個 別的な意向が尊 重される環境を 整える	<input type="checkbox"/> クライエ ントの意向を組 織内外の関係者に伝え るための支援を行って いる	<input type="checkbox"/> クライエ ントの意向を伝え る対象(窓口や担当者)を その都度に判断している	<input type="checkbox"/> これまでにクライエ ントの意向を反映した一定の成 果(回答や対処)を得てい る	
		b. 必要に応じてク ライエ ントへの 個別的な代行 を援助する	<input type="checkbox"/> 必要に応じて代行を行う または要請する。	<input type="checkbox"/> 代行すべき範囲または 要請すべき対象(窓口 や担当機関等)をその 都度判断している	<input type="checkbox"/> 法的な根拠や代行の明 確な裏づけ(説明)をもっ て代行または要請を行っ ている	
		c. 施設利用者の意 向調査(意向把 握)等を実施する	<input type="checkbox"/> 計画している	<input type="checkbox"/> 実施したことがある	<input type="checkbox"/> 継続的に行っている	
		d. 施設利用者の意 向を組織・業務 に反映する	<input type="checkbox"/> 施設利用者の意向を組 織内の体制に反映でき るようスタッフへの働き かけを行っている	<input type="checkbox"/> 施設利用者の意向が組 織内の体制に反映できる 支援体制作りに取り組ん でいる	<input type="checkbox"/> 施設利用者の意向が反 映できる支援体制作りを 地域的に取り組んでいる	施設利用者とは、クライアント を含む幅広い施設の利用者 である
	2) 権利擁護 のための 支援	a. 研修・養成教育 等を受ける	<input type="checkbox"/> 権利擁護・成年後見に関 わる研修会に参加してい る	<input type="checkbox"/> 権利擁護事業・成年後見 制度の養成に係る研修に 参加した	<input type="checkbox"/> 所属機関の公務として 関係スタッフが研修に 参加する体制にある	
		b. 権利擁護事業を 活用(紹介・利用 支援・情報収集 等)する	<input type="checkbox"/> 地域情報を継続的に把 握している	<input type="checkbox"/> 患者・家族等への個別的 な情報提供を行っている	<input type="checkbox"/> 必要に応じて導入を個 別的に支援している	
		c. 成年後見制度を 活用(紹介・利用 支援・情報収集 等)する	<input type="checkbox"/> 地域情報を継続的に把 握している	<input type="checkbox"/> 患者・家族等への個別的 な情報提供を行っている	<input type="checkbox"/> 必要に応じて導入を個 別的に支援している	
		d. 法的措置(訴訟・ 不服申し立て等 )の紹介・支援・	<input type="checkbox"/> 不特定に方法・窓口を情 報提供している(掲示・ 資料配布も可)	<input type="checkbox"/> 患者・家族等への個別的 な情報提供を行っている	<input type="checkbox"/> 必要に応じて導入を個 別的に支援している	

業務種別	業務内容	評価項目	1stステップ	2ndステップ	3rdステップ	解説	
		協力を行う					
H. 研修・管理	1) 研修	a. 知識の拡大	<input type="checkbox"/> 組織内の研修に積極的に参加している	<input type="checkbox"/> 内外の研修に積極的に参加している	<input type="checkbox"/> 年度計画などを持って内外の研修に参加している	・研修とは、業務の遂行に必要な知識、技術の習得と、その活用能力(技能)の向上を目指す取り組みを指す。	
		b. 技能向上	<input type="checkbox"/> 組織内の研修に積極的に参加している	<input type="checkbox"/> 内外の研修に積極的に参加している	<input type="checkbox"/> 年度計画などを持って内外の研修に参加している		
		c. 目標を持って学ぶ姿勢がある	<input type="checkbox"/> 自らの課題把握に努力している	<input type="checkbox"/> 自らの課題克服に努力している	<input type="checkbox"/> 計画を立てて実践力の向上に取り組んでいる		
	2) 管理	a. 業務の経過、結果の報告	<input type="checkbox"/> 必要に応じて報告する	<input type="checkbox"/> 定期的な報告の機会を持っている	<input type="checkbox"/> 文書での報告・記録を保管している	・報告とは、上司や管理者に対して、あらかじめ伝えるべき項目が期待されていることに対する伝達を指す。	
		b. 連絡	<input type="checkbox"/> 必要に応じて連絡する	<input type="checkbox"/> 定期的な連絡の機会を持っている	<input type="checkbox"/> 連絡の記録を作成・保管している	・連絡とは、あらかじめ伝えるべき項目は定まっていないが、上司や管理者、同僚に接触(コンタクト)を取ることを指す。	
		c. 相談	<input type="checkbox"/> 必要に応じて上司などに相談する	<input type="checkbox"/> 定期的に相談を行える機会がある	<input type="checkbox"/> 相談体制が明確化されている	・相談とは、上司や管理者から本来任されている業務に対して、判断に迷うときに接触をとること。	
		d. 確認(指示)を得て業務を行っている	<input type="checkbox"/> 常に確認(指示)を求めている	<input type="checkbox"/> 確認(指示)の要否を判断して対応している	<input type="checkbox"/> 確認(指示)の要否を説明できる(責任が持てる)	・確認とは、上司や管理者から任されている範囲(責任)を超える業務が含まれている場合、取るべき行動を指す	
	3) スーパービジョン	スーパービジョンを受ける	<input type="checkbox"/> 上司等の判断でスーパービジョンを受けることがある	<input type="checkbox"/> 自ら積極的にスーパービジョンを受けている	<input type="checkbox"/> 継続的にスーパービジョンを受けている	・スーパービジョンは経験年数にかかわらず必要性があると考えて評価する。	
	合計項目数			個	個	個	

## ⑥ 作業療法士の到達目標

一般的に作業療法は身体障害領域、老年期領域、発達障害領域、精神障害領域に区分されるが、子どもの作業療法に携わることが多い発達障害領域及び精神障害領域の作業療法士の教育について主に言及する

卒前教育(作業療法士養成教育機関における教育)と卒後研修(卒後研修)

【卒前教育】

0-A 一般到達目標

- 1 作業療法対象児童の心の問題について治療上配慮する必要性を認識することができる

0-B 個別到達目標

〈知識〉

- 1 子どもの精神発達と運動発達に関する基礎的知識を有する
- 2 発達障害領域及び精神障害領域の作業療法で子どもを対象とする各種疾患の基礎的知識を有する
- 3 子どもの心の問題の代表的なものに関する基礎的知識を有する
- 4 子ども虐待に関する基礎的知識を有する
- 5 被虐待児に対する作業療法の治療的介入を理解できる

〈態度〉

- 1 子どもの作業療法臨床を行う際、子どもの心や家族の心に配慮した態度を習得している

【卒後研修】

- 1) 今後、社団法人 日本作業療法士協会及び各都道府県士会における各種教育研修の中に、子どもの心の問題に関する内容について盛り込まれるよう検討する必要がある

発達領域及び精神障害領域に従事する作業療法士の到達目標

STEP1 主に臨床経験1年から3年を想定

1-A 一般到達目標

- 1 障害種別に関わらず作業療法対象の子ども心の問題についての重要性を認識することができる
- 2 作業療法臨床の場面において子どもの心の問題への気付きと配慮する必要性を認識することができる
- 3 心身相関に関する基礎的知識を有することができる
- 4 子どもの心の問題に関連する基本的な医学的知識やチームアプローチに必要な社会資源の情報を有することができる

## 1-B 個別到達目標

### (1) 知識

- 1 子どもの正常発達（運動発達、言語発達、社会性の発達、日常生活技能の発達、学習の発達等）の知識を有していること
- 2 子どもの生活環境や生活習慣が成長や発達に与える影響についての知識を有していること
- 3 精神障害の生物学的要因と社会・心理学的要因についての知識を有していること
- 4 広汎性発達障害、注意欠陥多動障害などの発達障害圏の障害についての知識を有していること
- 5 不安障害、身体表現性障害、不登校、ひきこもりなどの神経症圏の疾病についての知識を有していること
- 6 強迫性障害、摂食障害、解離性障害など比較的重度な神経症圏の疾病についての知識を有していること
- 7 うつ病、気分変調症など気分障害圏の疾病についての知識を有していること
- 8 統合失調症など精神病圏の疾病についての知識を有していること
- 9 PTSD、急性ストレス障害などトラウマ関連の障害についての知識を有していること
- 10 習癖、睡眠障害、排泄障害、単純チック障害などに対する基本的知識を有していること
- 11 親子関係の問題についての知識を有していること
- 12 心に問題のある子どもの保護者への適切な対応についての知識を有していること
- 13 子どもの虐待についての知識を有していること
- 14 抗精神薬に関する基礎的知識を有していること
- 15 地域の保健所、保健センター、学校や教育センター、児童相談所、乳児院、児童養護施設などの社会資源に関する情報を有していること

### (2) 技能

#### 【作業療法に関連する技能】

- 1 行動観察により子どもの発達のな特徴を把握することができる
- 2 各種評価バッテリーを併用し子どもの発達を評価することができる
- 3 評価の結果から主訴や問題行動の原因を推定し治療方針を立てることができる
- 4 作業療法治療の経過をまとめ、結果を主治医に報告することができる
- 5 子どもの心の問題に対する作業療法介入の必要性の判断及び適用について説明できる
- 6 作業療法臨床の場面において親子関係の問題から発生する子どもの心の問題への気づきと良好な養育環境となるような初期の対応ができる
- 7 小児科医、精神科医、看護師、臨床心理士、ケースワーカー等の関連他職種と情報共有し連携することができる
- 8 子どもの心の問題に関係する社会資源と連携して、子どもの精神保健に係わることができる
- 9 子ども虐待を疑い、初期対応と主治医への報告または適切な機関への紹介ができる

## STEP2 主に臨床経験4年以上を想定

### 2-A 一般到達目標

- 1 心に問題のある子どもに対して多角的評価を行い全体像をつかむことができる
- 2 適切な評価に基づき適切な治療形態及び治療内容を実施できること
- 3 様々な社会資源と協業し、子どもと保護者への支援ができること

### (1) 知識

#### 【医学的知識】

- 1 主な発達理論についての知識を有していること

- 2 心理、社会的治療についての知識を有していること
- 3 愛着や母子相互作用など家族の関係性や機能についての知識を有していること
- 4 DSM、ICDについての知識を有していること
- 5 発達障害に認められやすい精神症状についての知識を有していること
- 6 薬物による行動・精神面への作用と副作用についての知識を有していること
- 7 評価バッテリーとしての発達検査に関する知識を有していること
- 8 入院生活が子どもの心に与える影響についての知識を有していること
- 9 心身相関についての知識を有していること
- 10 慢性身体疾患が子どもの心に与える影響についての知識を有していること

【作業療法に関連する知識】

- 1 主な作業療法の治療理論について説明することができる
- 2 主訴や発達の課題、問題行動と作業療法評価結果を関連付けて説明することができる
- 3 種々の発達検査の内容と結果を適切に説明することができる

【制度に関する知識】

- 1 子どもの権利擁護についての知識を有していること
- 2 子どもの精神保健に関する法律の知識を有していること
- 3 子どもの精神保健に関連する領域の制度についての知識を有していること

(2) 技能

【作業療法に関連する技能】

- 1 子どもの心の問題や発達に関する問診を適切に行うことができる
- 2 子ども及び家族への問診から主訴、家庭生活、学校生活における様子などの情報を適切に収集することができる
- 3 子どもの運動、感覚・知覚・認知の状態を適切に把握し発達の特徴を捉え生活環境の中で日常生活への影響や発達の課題の原因を評価・分析することができる
- 4 行動特性、感情コントロール、作業中の態度、運動機能など精神障害の子どもの作業療法評価を実施することができる
- 5 問題解決のための適切な治療期間を設定することができる
- 6 個別や集団、作業活動の選択など根拠に基づいた治療形態の選択ができる
- 7 種々の発達検査を実施し結果を解釈することができる
- 8 保護者や関連職種に発達を促進する遊びや日常生活への助言ができる
- 9 子どもの発達にとって適切な生活習慣・生活環境について助言が出来る
- 10 育児に関する保護者の不安、心配事について助言をすることができる
- 11 親の関係の問題について保護者に助言できる
- 12 精神障害のある保護者あるいは養育能力の高くない保護者の育児に関する支援ができる
- 13 虐待をしている親への育児に関する支援ができる
- 14 保護者の生活状況、養育能力、精神状態を適切に把握し、子どもの対応の仕方を助言することができる
- 15 子どもの生活に係わる教師、保育士、幼稚園教諭、児童養護施設職員等の人的資源に助言を行うことができる
- 16 地域の発達支援機関などの社会資源へ紹介することができる
- 17 心の問題の背景にある身体的疾患や精神的疾患を疑い適切な紹介ができる
- 18 保健所、保健センター、学校や教育センター、精神保健福祉センター、行政機関と心の問題のある子どもと保護者への対応について協議することができる

## 研究成果の刊行に関する一覧表

### 書籍

著者氏名	論文 タイトル名	書籍全体の 編集者名	書 籍 名	出版社名	出版地	出版年	ページ
奥山眞紀子	子どもの心の診療拠点病院機構推進事業と思春期例の診療	仙波純一他	精神科治療学	星和書店	東京	2011	661-667
奥山眞紀子	不適切な養育を受けた子どもの理解と対応	深谷和子	児童心理 8月号	金子書房	東京	2011	89-93
奥山眞紀子	子どものPTSD 災害と子ども	飛鳥井望	最新医学別冊 新しい診断と治療のABC 心的外傷後ストレス障害 (PTSD)	最新医学社	東京	2011	184-191
Barr RG, <u>Fujiwara T</u>	Crying in Infants: Fussiness to Colic	Rudolph, CD, Rudolph, AM, Hostetter, MK, Lister, GE, Siegel, NJ. (Eds)	Rudolph's Pediatrics, 22nd Edition	Mc Graw-Hill	New York	2011	318-321
アレキサンダー・ブッチャー アリソン・フィネイ・ハーベイ マーセリーナ・ミアン ティルマン・フェルニス		トニー・ケーン編 小林美智子(監修) <u>藤原武男</u> 水木理恵(監訳) 坂戸美和子 富田拓 市川佳世子(訳)	エビデンスに基づく子ども虐待の発生予防と防止介入	明石書店	東京	2011	1-180
藤原武男	社会格差と健康格差	日本小児科学会 日本小児保健協会 日本小児科医会 日本小児科連絡協議会ワーキンググループ編	子育て支援ハンドブック	日本小児医事出版社	東京	2011	201-204
藤原武男	要支援家庭の発見と支援	日本小児科学会 日本小児保健協会 日本小児科医会 日本小児科連絡協議会ワーキンググループ編	子育て支援ハンドブック	日本小児医事出版社	東京	2011	204-208

雑誌

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
<u>Fujiwara T</u> , Barr RG, Brant R, Barr M	Infant distress at five weeks of age and caregiver frustration	J Pediatr	159	30-425	2011
<u>Fujiwara T</u> , Kato N, Sanders MR	Effectiveness of group positive parenting program (Triple P) to change child behavior, parenting style and parental adjustment: An intervention study in Japan	Journal of Child and Family Studies	20(6)	13-804	2011
<u>Fujiwara T</u> , <u>Okuyama M</u> , Funahashi K	Factors influencing on the time lag between first parental concern and first visit to child psychiatric services among children with autism spectrum disorders in Japan	Research in Autism Spectrum Disorders	5(1)	91-584	2011
<u>Fujiwara T</u> , Kawakami N, World Mental Health Japan Survey Group	Association of childhood adversities with the first onset of mental disorders in Japan: Results from the World Mental Health Japan, 2002-2004	J Psychiatr Res	45(4)	7-481	2011
<u>Fujiwara T</u>	Association between Urinary Oxytocin Level and Maternal Parenting Behaviors	Paediatric Research	70 (Supplement 5)	577	2011
Komazaki Y, <u>Fujiwara T</u> , Kosaki R, Ogawa T, Moriyama K	The methods of three-dimensional anthropometric measurements for infants/toddlers face with minor anomalies	Paediatric Research	70 (Supplement 5)	415	2011
藤原武男、 大澤万伊子	喘息の環境要因	保健医療科学	59(4)	351-359	2011
藤原武男、 高松育子	自閉症の環境要因	保健医療科学	59(4)	330-337	2011
<u>藤原武男</u>	なぜ子どもへの環境影響が重要なのか？ - エコチル調査の科学的背景	ビオフィリア	7(1)	59-62	2011
Ozawa R, Inaba Y, Mori M, Hara R, Kikuchi M, Higuchi R, Miyamae T, Imagawa T, <u>Fujiwara T</u> ,	Definitive differences in laboratory and radiological characteristics between two subtypes of juvenile idiopathic arthritis: systemic arthritis and polyarthritis	Mod Rheumatol		Epub ahead of print	2011

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
Saito T, Yokota S					
Imamura T, Nakagawa S, Goldman RD, <u>Fujiwara T</u>	Validation of Pediatric Index of Mortality 2 (PIM2) in a single pediatric intensive care unit in Japan	Intensive Care Medicine	38(4)	649-654	2012
<u>Fujiwara T</u> , Natsume K, <u>Okuyama M</u> , Sato T, Kawachi I	Do home-visit programs for mothers with infants reduce parenting stress and increase social capital in Japan?	J Epidemiol Community Health		in press	
<u>Fujiwara T</u> , Takao S, Iwase T, Hamada J, Kawachi I	Does Caregiver's Social Bonding Enhance the Health of their Children? The Association between Social Capital and Child Behaviors	Acta Medica Okayama		in press	
Parajuli RP, <u>Fujiwara T</u> , Umezaki M, Furusawa H, Ser PH, Watanabe C	Cord blood levels of heavy metalstoxic and essential trace elements and their determinants in the Terai region of Nepal: A birth cohort study	Biological Trace Elements Research		in press	
Mann B, Desapriya E, <u>Fujiwara T</u> , Pike I	Is Blood Alcohol Level a Good Predictor for Injury Severity Outcomes in Motor Vehicle Crash Victims?	Emergency Medicine International		in press	
<u>Fujiwara T</u> , <u>Okuyama M</u> , Izumi M	Factors that Contribute to the improvement in maternal parenting after separation from a violent husband or partner	Journal of Interpersonal Violence		in press	
Desapriya E, <u>Fujiwara T</u> , et al	Alcohol production and the sales deregulation policy and traffic fatalities in Japan	Asia-Pacific Journal of Public Health		in press	
<u>Fujiwara T</u> , <u>Okuyama M</u> , Izumi M	The impact of childhood abuse history, domestic violence, and mental symptoms on parenting behaviour among mothers in Japan. Child: Care	Development and Health		in press	



